

# 琉球列島の言語再活性化と言語記述

當山奈那（琉球大学）

## 報告内容

- ・ 自己紹介
- ・ 琉球列島の言語
- ・ 琉球列島内での言語再活性化に関する取り組み
- ・ 研究者がかかわる言語再活性化の取り組み—教材作成を中心に—
- ・ 琉球諸語における言語記述
- ・ まとめ

# 自己紹介

- 琉球大学人文社会学部琉球アジア文化学科所属
- 出身は沖縄島の首里。両親・祖父母とも那覇出身。
- 両親が共働きだったため、高校まで帰宅先が母方の祖父母の家。
- 方言は祖父母のくらしのことば、祖母の祈りのことば、秘密のことば。
- 高校生の時に祖母が急逝、くらしのことばと祈りのことばもなくなった時に喪失感。「方言」を認識
- 「沖縄の方言」のことを勉強するために地元の琉大に進学、「琉球方言研究クラブ」に入会し、1年生の夏に石垣島の白保調査に同行させてもらう。学問方面から琉球列島の言語の記録や継承に関わりたと思うようになったきっかけ。
- 研究と教育を一貫させた言語学研究会の理論に学び、修士と博士論文は祖父のことばで首里方言の文法記述を行う。
- 祖母～祖父の死による家族親戚関係の崩壊、親兄弟間・友人間の政治観の隔たりに直面。首里士族にルーツをもつ首里出身の女性である自身への嫌悪感。
- 指導教員狩俣繁久先生「複雑なものを複雑なまま理解する」→言語現象への姿勢。琉球・沖縄のこと、自分自身に対する姿勢に。



動画：琉大入試課、「2022琉球大学案内 研究者紹介【人文社会学部 當山准教授】」2021/05/18,  
<https://www.youtube.com/watch?v=dp0vKcrvoRI&t=5s,2022/08/08>閲覧。

# 自己紹介

- ・新沖縄県史編集委員会 各論編言語専門部会委員
- ・沖縄言語研究センター 運営委員
- ・恩納村誌「言語編」専門部会 専門委員
- ・しまくとぅば講師養成講座 八重山中級, 沖縄北部上級 2022年度講師

# 要旨

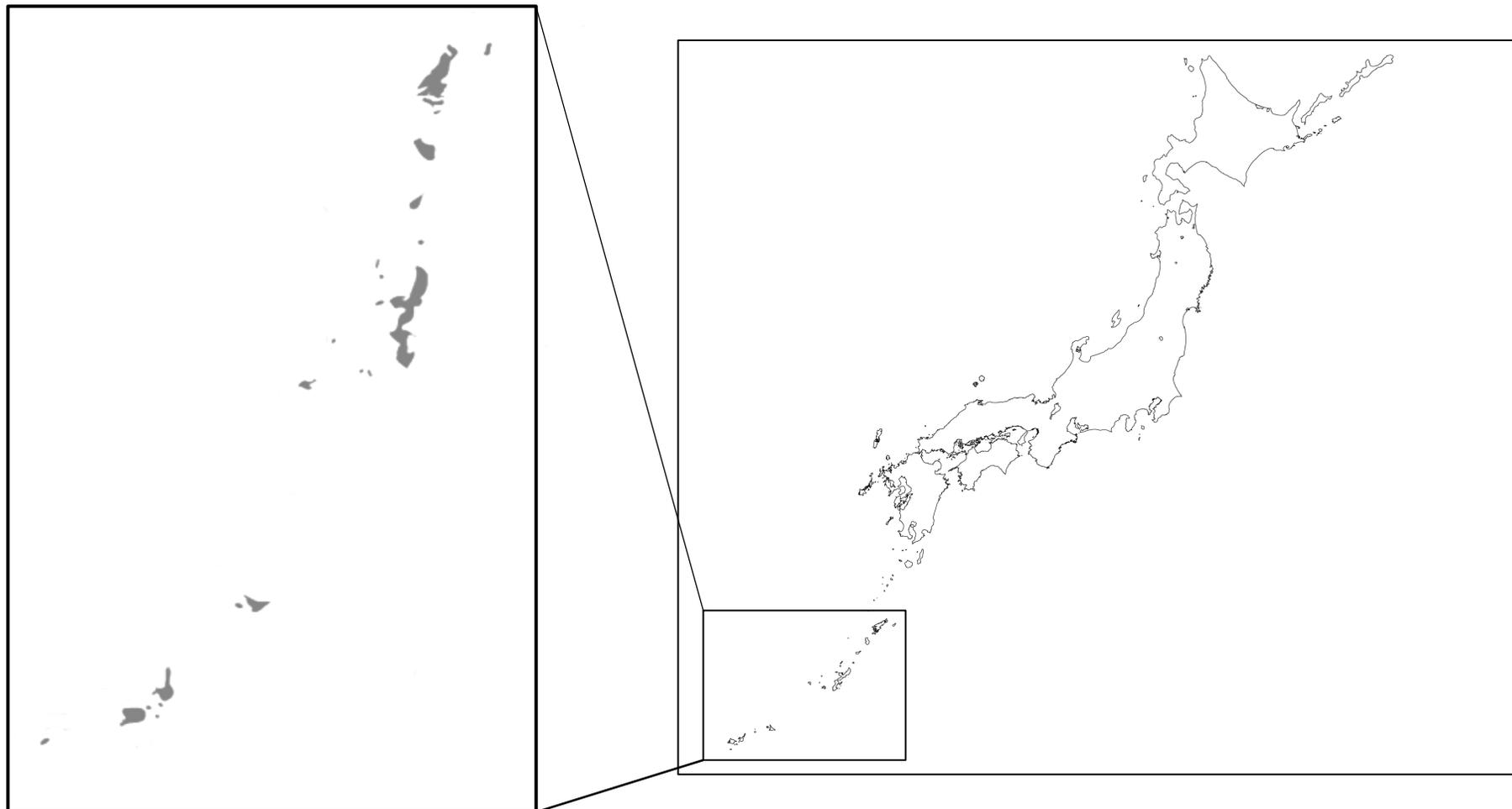
- 本報告では、まず、琉球諸語の再活性化につながる動きの現在の状況について、鹿児島県、沖縄県、市町村、教育機関、普及団体、メディア、個人的取り組みを整理する。その上で、琉球諸語の再活性化には、「多様な言語を多様なままに継承する」という理想と課題があることを述べる。次に研究者が関わる取り組みに焦点をあて、その中でも教材作成についてみていく。特に沖縄県では、現状発行されている語学教材が首里・那覇の沖縄島内では威信的なことばのみである点を指摘し、現在のさまざまな取り組みと接続可能な、さまざまな琉球諸語の教材の必要性について述べる。話者が少なくなっている琉球諸語では、言語記述が重視されるが、教材作成と言語記述の両立についても考えてみたい。

# 琉球列島の言語

# 琉球諸語／琉球方言／琉球語とは ①

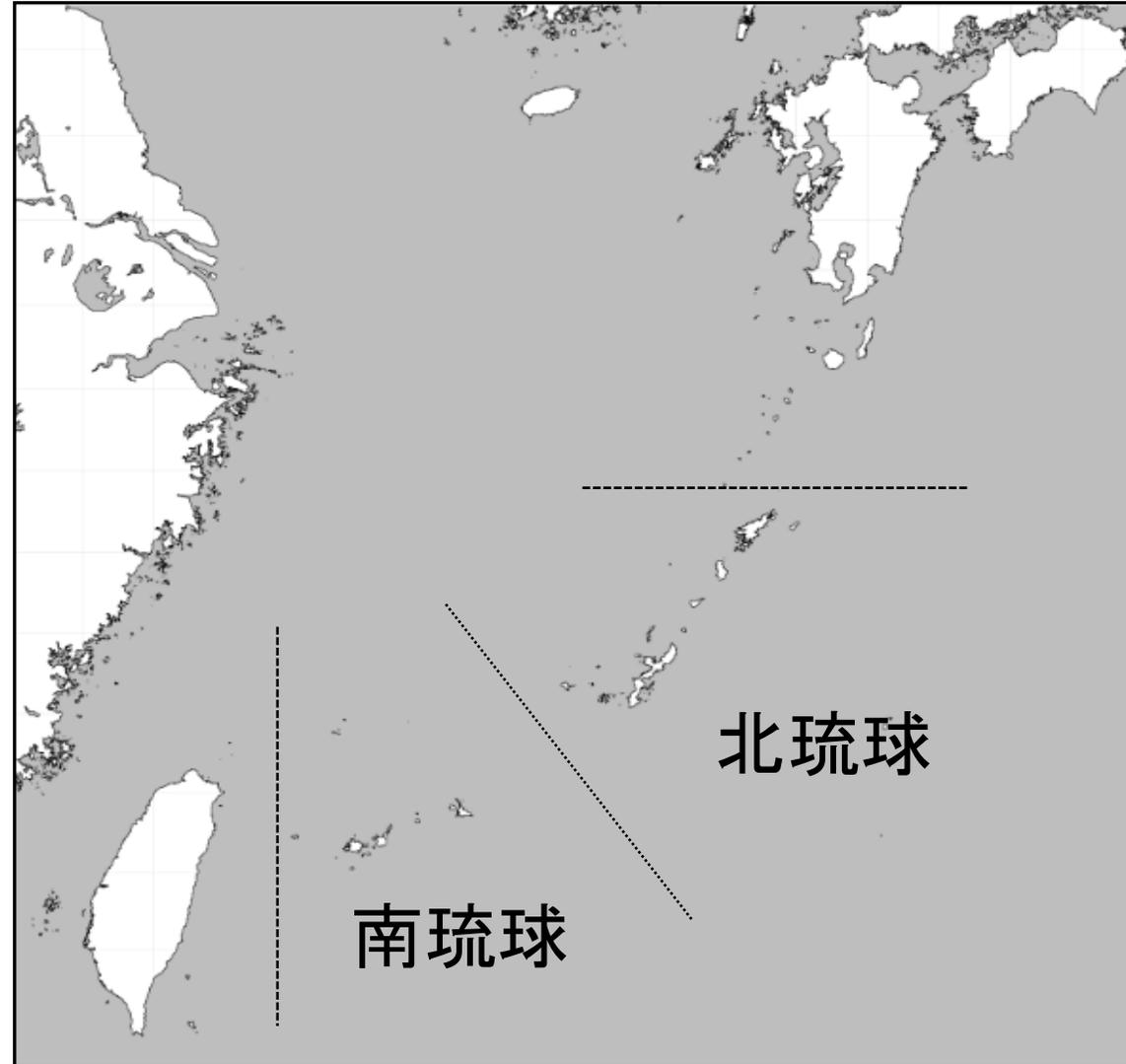
- 琉球諸語／琉球方言／琉球語は、琉球列島（沖縄県と奄美群島内）で使用される伝統的な言語。
- 琉球諸語、琉球諸方言、琉球語、琉球方言などの用語がみられる。

# 琉球諸語について



# 琉球諸語の下位区分

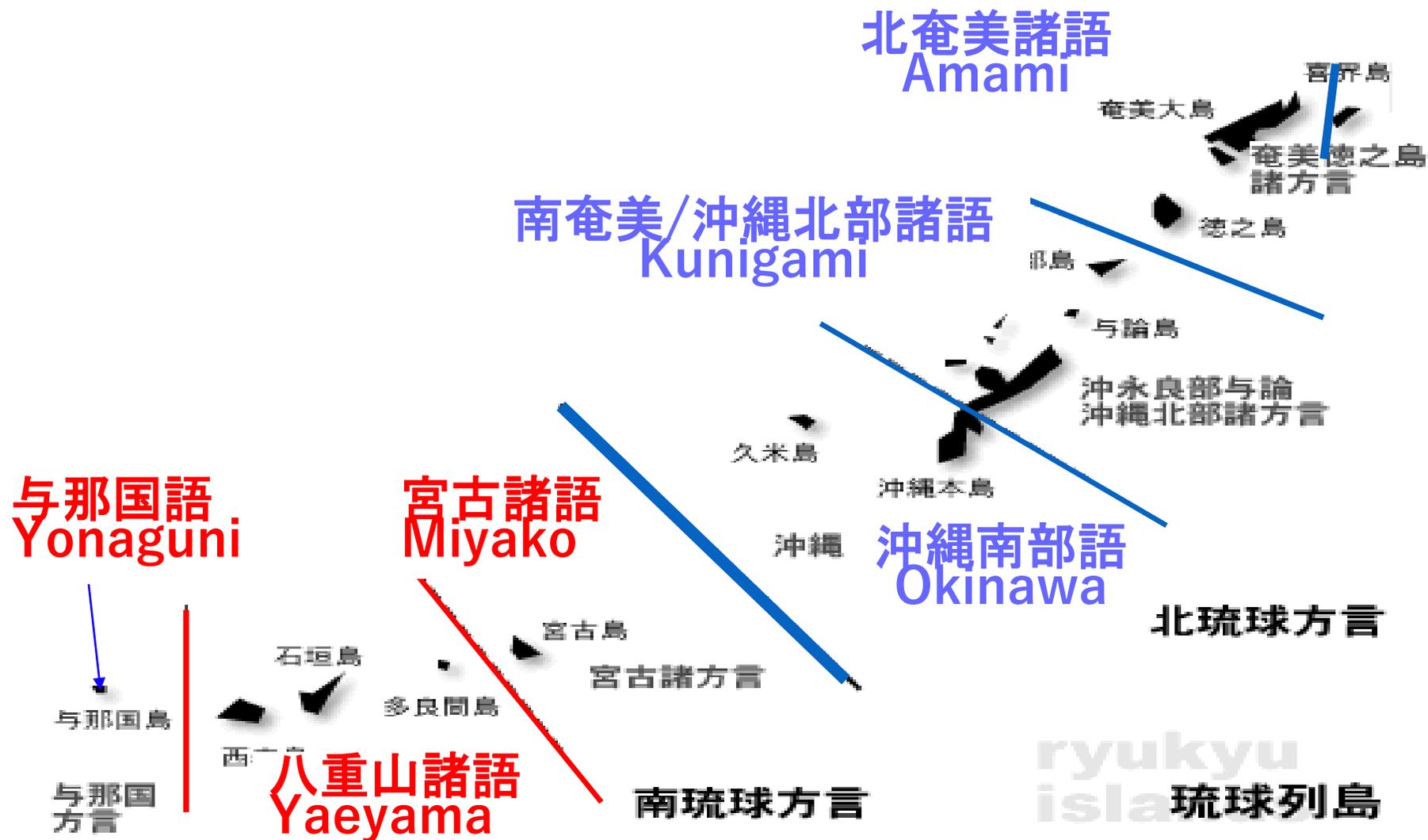
- ・ 北琉球諸語と南琉球諸語。
- ・ 二つの下位言語の間のちがいは大きい。



# 琉球諸語の下位区分

- 北琉球諸語は、さらに、北奄美語、南奄美沖繩北部語、沖繩南部語の三つに区分できる。
- 南琉球諸語は、宮古語、八重山語、与那国語の三つに区分できる。
- これらは、2009年にユネスコが危機言語に指定した琉球語の6つの下位言語、奄美語、国頭語、沖繩語、宮古語、八重山語、与那国語とほぼ一致する。

# 琉球諸語の下位区分(Karimata/UNESCO)



## 琉球諸語／琉球方言／琉球語とは ②

- 規則的な音韻対応と文法的な類似点から、日本語と同系統の言語であることが証明されている。
- しかし、日本語の本土諸方言との相互理解度がなく、さらに、琉球諸語／琉球諸方言内でも地域変種が多様で、変種間でも相互理解度を欠くため、現在では、日本語の方言のひとつではなく、独立した言語（琉球語、琉球諸語）であるとみなす捉え方が言語学の分野では一般的。

# 琉球列島を日本本州に重ねた地図



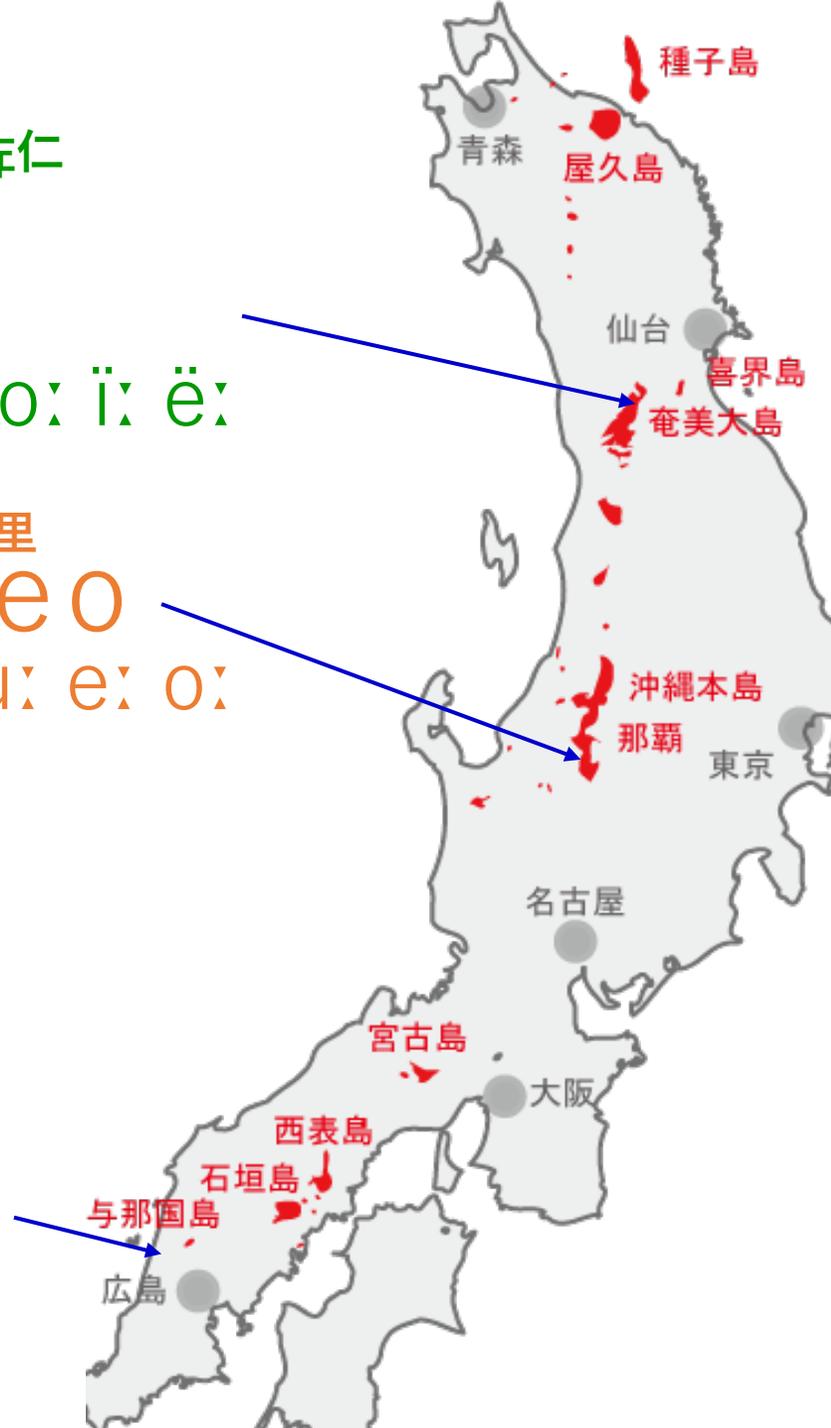
k i: (毛)   
s e h e (酒) 

奄美大島笠利町佐仁  
a i u e o i  
e i ã õ e ~  
a : i : u : e : o : i : e :

沖縄島首里  
a i u e o  
a : i : u : e : o :

与那国島  
長短區別無し  
a i u 3個

1. 母音



# 2. 子音

, p t k ts m n j w s h  
? p' t' k' tz ?m ?n ?j ?w  
b d g dz r N ?N Q  
伊江島

p t k s f v m n  
r j  
宮古大神島 10個



# 琉球諸語／琉球方言／琉球語とは ③

- 琉球諸語は細かい違いに注目すると、集落ごとに異なっているといわれる。(琉球諸語内には800余りの集落がある)

# 見えない琉球列島のことば

- 「琉球諸語／琉球方言／琉球語」の枠組みに入らなかった言語もある。
- 「久米島具志川村鳥島， および沖繩本島の東方海上に位置する大東諸島も同じ中南部の行政区域に含まれているが， 前者は奄美の徳之島の西方にある硫黄島からの移住者によって， 後者は主として， 八丈島およびその他の地域の人々の移住によって形成された村であるため， この方言圏（報告者注：沖繩南部語， 沖繩語）からはずされる」（津波古1992）
- 沖繩島内の新設集落（廃藩置県前後に沖繩中南部からの移住者によって形成された集落）は， 伝統集落と区別され， 多くの方言は未調査である。  
例）沖繩県本部地域

# 名前のないことば

- ウチナーヤマトゥグチ→伝統的な沖縄諸語と日本語諸方言との接触によって、言語が混交していく過程で第一言語（沖縄諸語）の影響を受けて生まれた新たな言語変種。世代を超えて継承されている。この言語は接触言語として、現行のいずれの概念とも異なる特徴がある。（『明解方言学辞典』ウチナーヤマトゥグチの項目）
- 宮古や八重山にも存在しているが、沖縄中南部の「ウチナーヤマトゥグチ」、奄美諸島の「トン普通語」以外の地域で呼び名がない。
- 接触言語のタイプの一つである「クレオロイド」に完全には一致しないが、全体としてはクレオロイドに近い性格を有する（ダニエル・ロング2010）

→「沖縄クレオロイド日本語（ウチナーヤマトゥグチ）」「宮古クレオロイド日本語」「八重山クレオロイド日本語」「奄美クレオロイド日本語」を設定（狩俣2019）

・伝統的な琉球諸語が好意的にとらえられるようになった現在でも、これらの言語は、少なくとも沖縄島内では、「崩れた方言」「間違った方言」「乱暴な」「汚い」「教養のない」「男っぽい」と評価される。

# 海外の琉球語（ブラジル沖縄コロニア語）

- ・ブラジル沖縄コロニア語→ブラジルの沖縄系社会で話される言語（儀保2011）

[孫を話題にして] dois ano のときからよ、三歳、その三歳のときからもうアサドゥヤーユンター覚えてすぐ歌いよった、一人で。（儀保2011：77-78）

（報告者注：dois ano（正しくは、dois anos）＝二歳、アサドゥヤーユンター＝琉球民謡の曲名、歌いよった＝歌った）

- ・「琉球諸語」「琉球クレオロイド」「コロニア語（日本人とその子孫が形成し、営んでいる社会でもちいられる言語）」「ブラジル・ポルトガル語」の4言語コードの接触からなる言語。

# 「言語か方言か？」という選択肢

- 本発表では、この議論（選択肢）をあえて放棄する。
- 「少なくとも、現地の方には彼ら自身の話すことばは、たとえば、「へんざぐち」「うくむに一」のように、「～ぐち」「～むに」「～ゆんた」「～ふつ」などとよばれるものである。それを「言語」とよぼうが「方言」とよぼうが、その瞬間に、彼らのことばは世界の「外側」から規定され、名づけられ」る。（當山2017）
- このような問いかけは、一見、選択の自由を与えられているようで、その選択肢自体が実は外から与えられたもの。

# 新語「しまくとうば」

- かりまた「おわりに—しまくとうばを学ぶことを通して—」, 『ちかていあしばなしまくとうば』(p70)より抜粋
- 「わたしたちは、ことばを使って、見たり聞いたりしたこと、自分の考えや感じたことを伝えます。考えを深め、知識を得るためにもことばが必要です。遠い過去のことも未来のこともことばによって表したり伝えたりすることができます。ことばは、人間にとって大切なものです。」
- 「沖縄県の中でも、沖縄と宮古と八重山とではことばがちがいます。さらに沖縄の中でも島ごと、地域ごとにことばのちがいがあります。沖縄の南部と北部でことばがちがうだけでなく、那覇市の中でも首里と那覇と小禄と真和志とではことばが少しずつ違います。この本で使っている“しまくとうば”の“しま”には、「故郷」という意味があります。ですから、“しまくとうば”はふるさとのことばです。“しま”ごとにいろいろな“しまくとうば”が使われているのです。」
- 本発表では、広く「地域のことば」という意味で、総称としての「しまくとうば」を用いる。

琉球列島内での言語再活性化に関する取り組み

# 記述研究から継承へ

- 1982年 沖縄言語研究センターによる琉球列島全集落調査開始
- 1999年 宮岡伯人代表「環太平洋の消滅の危機に瀕した言語に関する緊急調査研究」（文部科学省科学研究費特定領域研究1999-2003）  
→ 『消滅の危機に瀕した琉球語に関する調査研究』（狩俣繁久・津波古敏子・加治工真市・高橋俊三編）
- 2009年 UNESCOが「危機言語地図（Atlas of the world's languages in dander）」を発表
- 2012年 「消滅危機言語としての琉球諸語・八丈語の文法記述に関する基礎的研究」（研究代表者：狩俣繁久2012～2015） → 琉球諸語の下位方言のうち27の方言についての文法記述。
- 2013年 沖縄県が「しまくとぅば普及推進計画」を策定
- 2015年 文化庁に「危機的な状況にある言語・方言に関する研究協議会」設置
- 2016年 国立国語研究所基幹型プロジェクト「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」
- 2022年 国立国語研究所共同研究プロジェクト「消滅危機言語の保存研究」
- 2022年 沖縄県しまくとぅばアーカイブ事業

# 言語再活性化に関する活動状況

## (Ⅰ) 教材コンテンツ

1. テキスト
2. ウェブ上

## (Ⅱ) マスメディア

1. 新聞
2. テレビ番組
3. ラジオ番組

## (Ⅲ) 語学教室

1. 語学教室（NPO法人から個人まで）
2. 学校現場（保育園～大学）
3. 講師養成講座・検定

## (Ⅳ) 言語作品

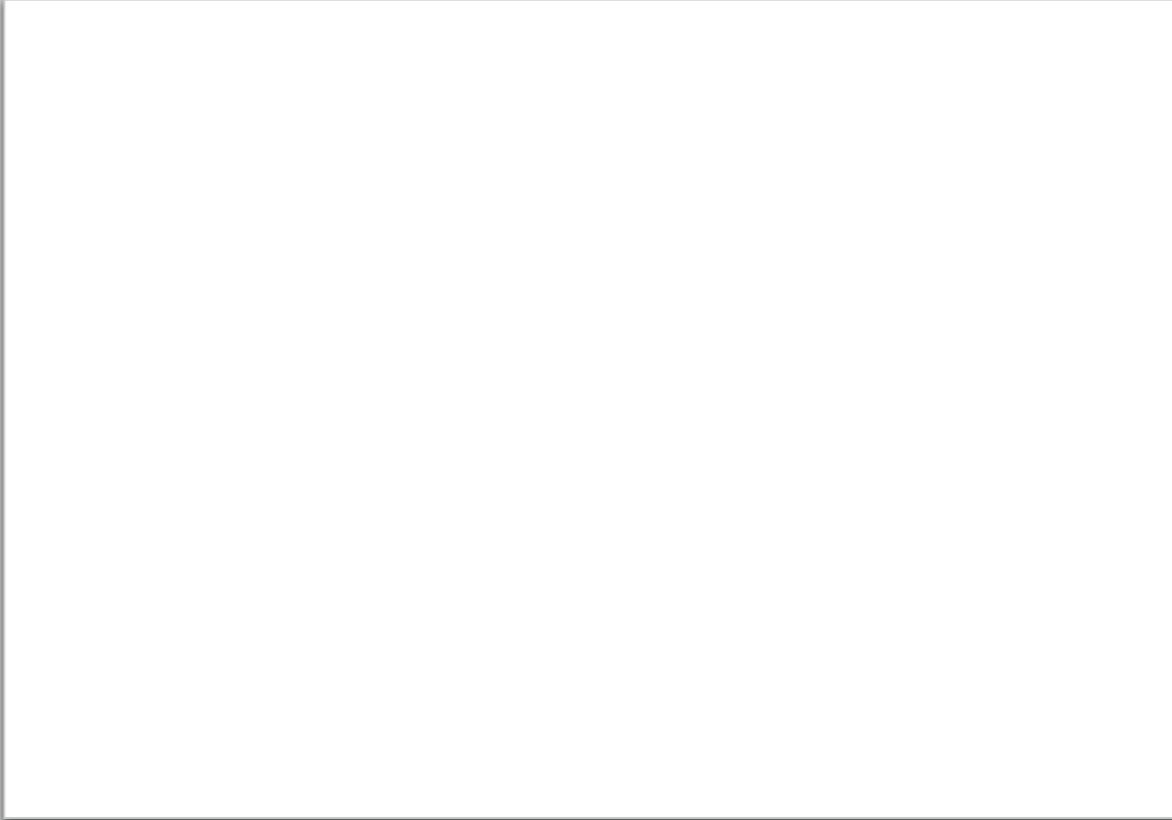
1. 歌
2. 舞台芸術
3. 文学作品（翻訳含む）
4. 映像作品

## (Ⅴ) 文字、フォントの開発

# 教材コンテンツ

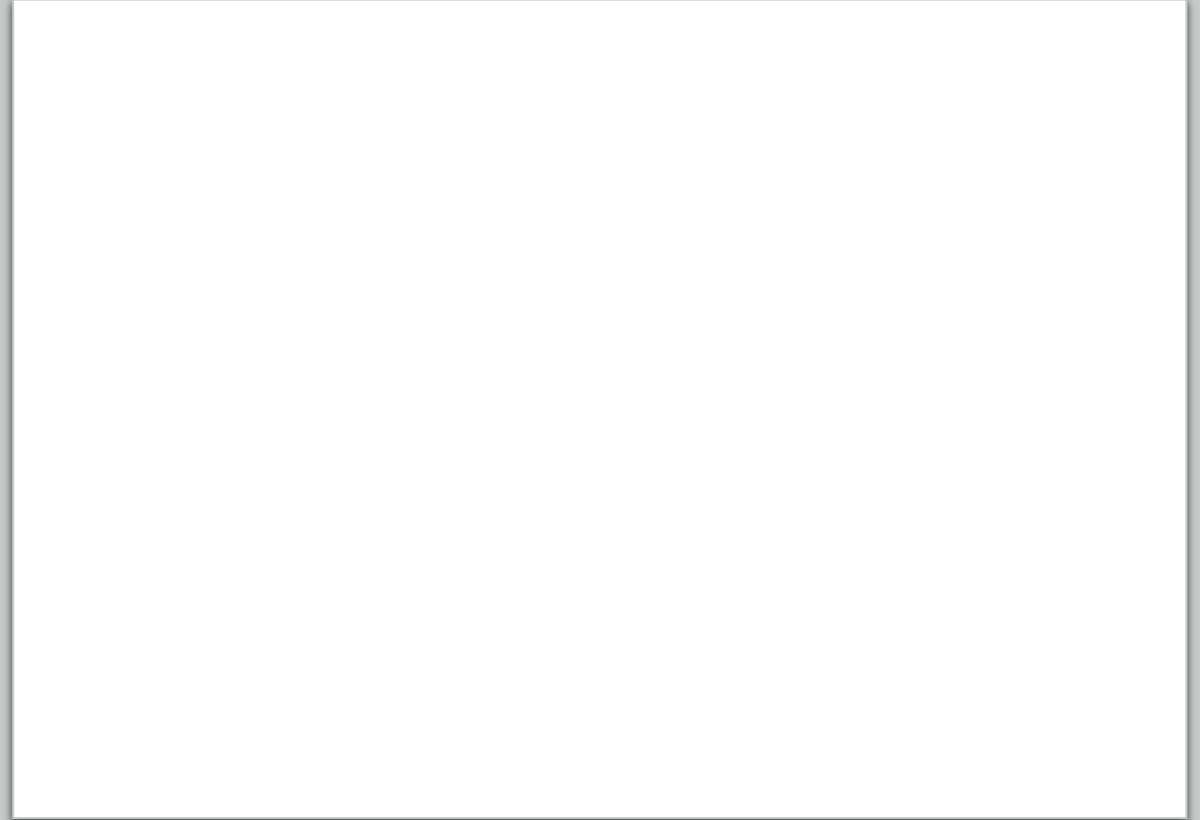
・ 沖縄島内。読谷村史編集室「読谷村しまくとうば単語帳」「むんがたい」「しまくとうばマップ」の閲覧他、教材や民話資料などの閲覧とダウンロードが可能。

<https://yomitan-sonsi.jp/iroiro/> (2022/08/09閲覧)



# 教材コンテンツ

・沖縄県文化振興課作成の学習ツールのダウンロードなど。しまくとぅば普及センターサイト内  
<https://shimakutuba.jp/learn/document/> (2022/08/09  
閲覧)



# マスメディア

## 1. 新聞

- ・ 沖縄タイムス→子ども新聞「ワラビー」に沖縄語（首里那覇共通語）と英語を併記
- ・ 沖縄タイムスpodcast→「うちなあタイムス」で取り上げた音声データを字幕付きで公開

## 2. テレビ番組

- ・ QAB琉球朝日放送→ニュース番組「CATCHY第2部」の「めーにちしまくとぅば」現在Season3
- ・ NHK「うちなーであそぼ」→うちなー昔話，うちなー童謡，うちなー劇場

## 3. ラジオ番組

- ・ あまみエフエム・デイ！ウェイヴ！→シマグチNEWSシマユムTIME
- ・ ラジオ沖縄→方言ニュース
- ・ FMいしがきサンサンラジオ→みんなのすまむに
- ・ ぎのわんシテイFM→まーるまーるーし琉球諸語

# 語学教室

## 1. 語学教室（NPO法人から個人まで）

- ・ 沖縄ハンズオン（NPO法人）
- ・ 沖縄県沖縄語普及協議会（NPO法人）
- ・ 親子教室小学生のためのシマクトゥバ（しまくとうば普及センター） →2021年度は中止。

## 2. 学校現場

- ・ 沖縄県立芸術大学「しまくとうば実践教育プログラム開発事業」

## 3. 講師養成講座・検定の実施（しまくとうば普及センター）

- ・ しまくとうば講師養成講座 →2022年度は八重山中級，沖縄北部上級 →上級修了者は人材バンクに登録。講師として派遣される。
- ・ しまくとうば検定 →2022年度はどうなんむぬい（与那国），しゅまむに（石垣四箇），沖縄中南部，とうぐちくとうば（沖縄本部町）が実施。

## 言語作品

- デジタルミュージアム「ウチナー民話のへや」  
<https://okimu.jp/museum/minwa/> (2022/08/09閲覧)  
沖縄県立博物館・美術館サイト内
- 沖縄北部，沖縄中部，沖縄南部，宮古，八重山，与那国まで，各地点の民話をその地域のしまくとぅばで語ってもらった音声をもとに，デジタルコンテンツを制作。

# 言語作品

- 沖縄県対米請求権事業協会「書いて残そう島々の言葉—琉球諸語継承」の作品集と音声
- おきなわ文学賞「しまくとぅば文芸部門」



# 文字、フォントの開発

・沖縄県におけるしまくとぅば表記の策定（2022年5月30日）

<https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/bunka-sports/bunka/shinko/simakutuba-hyouki.html>(文化観光スポーツ部 文化振興課サイト2022/08/09閲覧)

## 基本的な考え方

- ①本表記と異なる表し方を否定するものではない。
- ②普及が目的であるため、児童生徒を含む多くの県民にわかりやすいもの
- ③仮名文字表記はカタカナに準拠。それでも書き表せないものはカタカナ表記の文字構成の原則を適用し、新たな表記を創出。
- ④琉球諸語全体の音を可能な限り重複がないよう書き分ける

→国頭200音節， 沖縄140音節， 宮古145音節， 八重山159音節， 与那国153音節

# 言語再活性化に関する活動状況

- ・奄美諸島，沖縄県内全体で考えると，行政，法人団体，サークル，個人など、さまざまな立場の人がさまざまな形で言語再活性化に関わる活動に取り組んでいることがわかる。
- ・鹿児島県による奄美諸語の再活性化の取り組みは不明。
- ・ただし，地域に偏りがある。例えば，奄美諸島，沖縄諸島，宮古諸島，八重山諸島で考えた場合，圧倒的に多いのは沖縄諸島。
- ・沖縄諸島内でも，行政上の県庁所在地であり，都会部である那覇方言（首里那覇方言）のケースが圧倒的におおかったが，言語バリエーションを残しながら継承していく方向に向かっている。

# 記録保存と継承の問題

- ・「首里方言」について、①首里階層方言、②首里地域方言、③首里那覇社会方言の3つを取り出し、区別することができる。③は①と今日では都市化がもっとも進んだ那覇市内の方言を土台にして作られた地域方言の特徴をうしなった新たな言語変種。（當山2014）
- ・ 崎原（2015）は、この③の言語変種を**NEO HAW**に倣って、「ネオ沖縄語」と呼んでおり、「ネオ沖縄語」が語彙・文法上、首里階層方言の特徴も那覇方言の特徴も失いつつあることを指摘。
- ・ この言語変種は、「うちなーぐち」と呼ばれている。

# 多様性と標準化

- ・ 崎原（2015）のハワイ語、コムリー（2002）のウェールズ語、ヴィレム（2002）のケチュア語のケース
  - ・ 危機言語の内部で言語変種が存在する場合、言語の保存や再活性化（復興）にたずさわる人々が伝達上の需要を満たすために標準化や中央集中化をめざすことが起こりやすい。
  - ・ 復興言語として普及しているのは、伝統言語とは異なるハワイ語のNEO HAWのような新たな言語変種である傾向。地域性の喪失。
- 言語多様性を保持した継承が成功している地域は管見の限りみられなかった。また、琉球語も類似のことが起こっていることを指摘（當山2019）
- 台湾では各学校に対して各生徒に原住民諸語40以上の変種から一つを選択して学習することができる（松尾2010）

# 標準化の問題点

- ・「標準語が普及するようになると、地域で受け継がれてきた「弱小」しまくとぅばを駆逐し、沖縄県の言語多様性を維持できなくなる可能性が高い。日本語の普及によりしまくとぅばが衰退した歴史的事実を考えると、しまくとぅば標準語を選定普及させることについては、疑問がある。」（石原2015）

- ・特に、沖縄島内では、「首里方言」が威信方言となっている。かりまた（2013）では、琉球方言内の威信方言について“endangered language”であると同時に“killer language”であると指摘。

# 標準化の問題点

- ・ 沖縄県国頭村奥方言は話者数が50人に満たず、全て80代以上の方（石原2016）。**killer language の影響も強く受けている。**「シマナカー」という中間言語の存在。
- ・ 「高校から村外に出た。奥の方言は独特で恥ずかしいと思って、また共通性が低いから使わなくなった。かといって完全な那覇の言葉も使えない。奥の言葉の様子が入った混合の言語を使っていた。奥の人が那覇で使う言葉を「シマナカー」といった。」（沖縄タイムス2013年9月8日）。
- ・ 「うちなーぐち会」がうちなーぐちを条例で県の第2公用語に制定するよう要請。「うちなーぐちは沖縄共通のいわば国語。地域の言葉であるしまくとぅばと分けて考えなければならない」（沖縄タイムス2022年3月11日）

# 琉球列島の中心と周縁

- 八重山の小島嶼，竹富島出身の歴史研究者，西里喜行が入れ子構造のような差別体験について述べている。（西里1981：「あとがき」より）
- 幼少時代に「孤島（竹富島）と八重山本島（石垣島）との間に横たわる「差別」の壁に直面する機会に再三めぐりあ」った。（同：261）
- 高校進学時に「「先島」と「沖縄」との間に横たわる「差別」の壁に悩まされた（略）言葉（方言）が通じないというのが一つの原因」「メーカーンチュ（宮古人）のK君と（略）相連帯してウチナーンチュ（沖縄人）に対抗心を燃やした」（同：261）
- 大学進学時に京都で「そこでもまた「沖縄」と「日本」の間に横たわる「差別」の壁の根強さに驚かされつづけた」（同：262）

# まとめ

- 琉球列島の言語内部の言語イデオロギーのあり方。「琉球諸島における「離島」で生まれ育った琉球諸語の話者は、人生において拠点の移動を経る中で、「中央へのまなざしと周縁性の自覚」, 「言語の階層性」といった標準語イデオロギーと対峙しながら、「地域基準」「社会基準」にもとづいた言語使用をおこなう。(安元2021)
- 「琉球のみならず、沖縄においても文化的な多様性が存在するため、異文化にたいする寛容性は、沖縄から始めなければならない。寛容性は、選択肢がなく絶対的なものであるため、あらゆる多様性を尊重すべきである」(ファンデルルベ2021)
- 琉球列島におけるしまくとぅばの再活性化には、「多様な言語を多様なままに継承する」という理想があり、それは同時に課題でもある。

研究者がかかわる言語再活性化の取り組み  
—教材作成を中心に—

# 危機言語の記録保存と継承

- ・言語の保持と継承のために必要な 3点セット

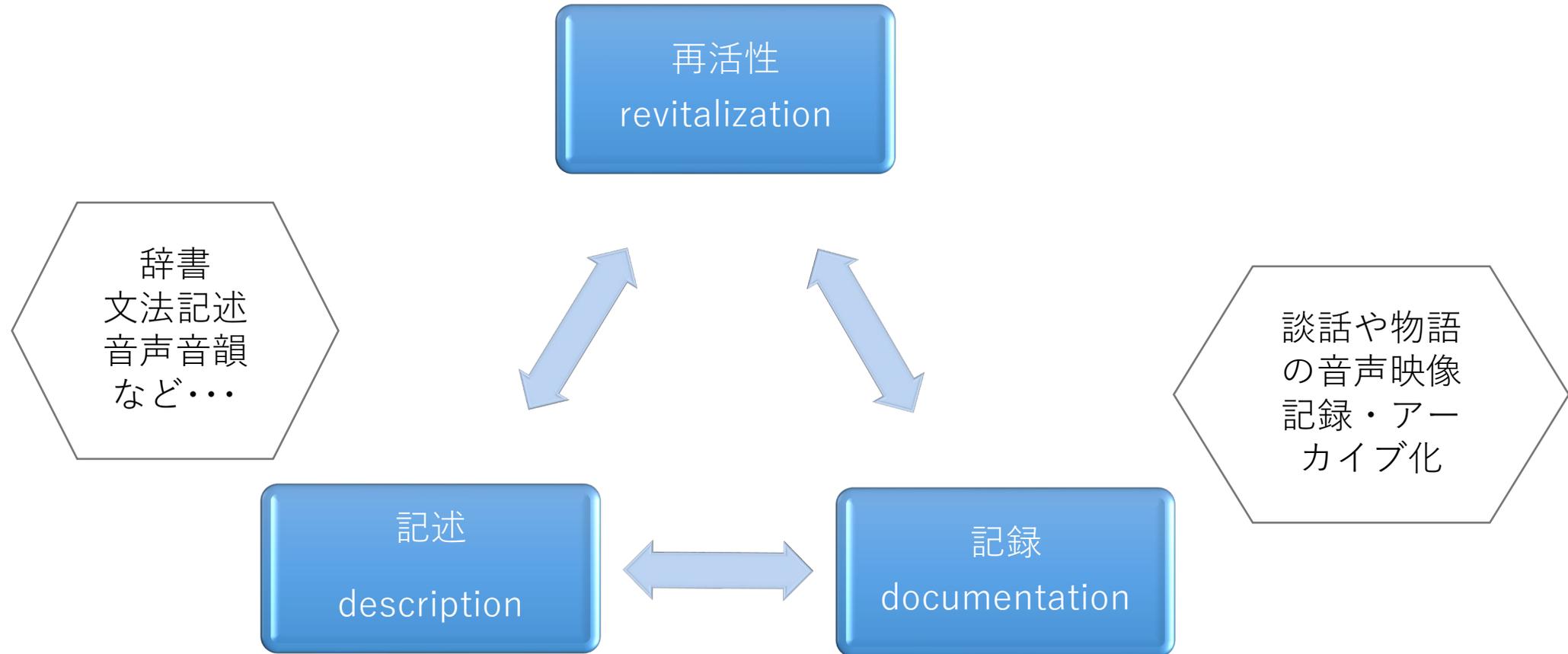
①文法書②辞書③テキスト (F・ボアズ,E・サピア)

+

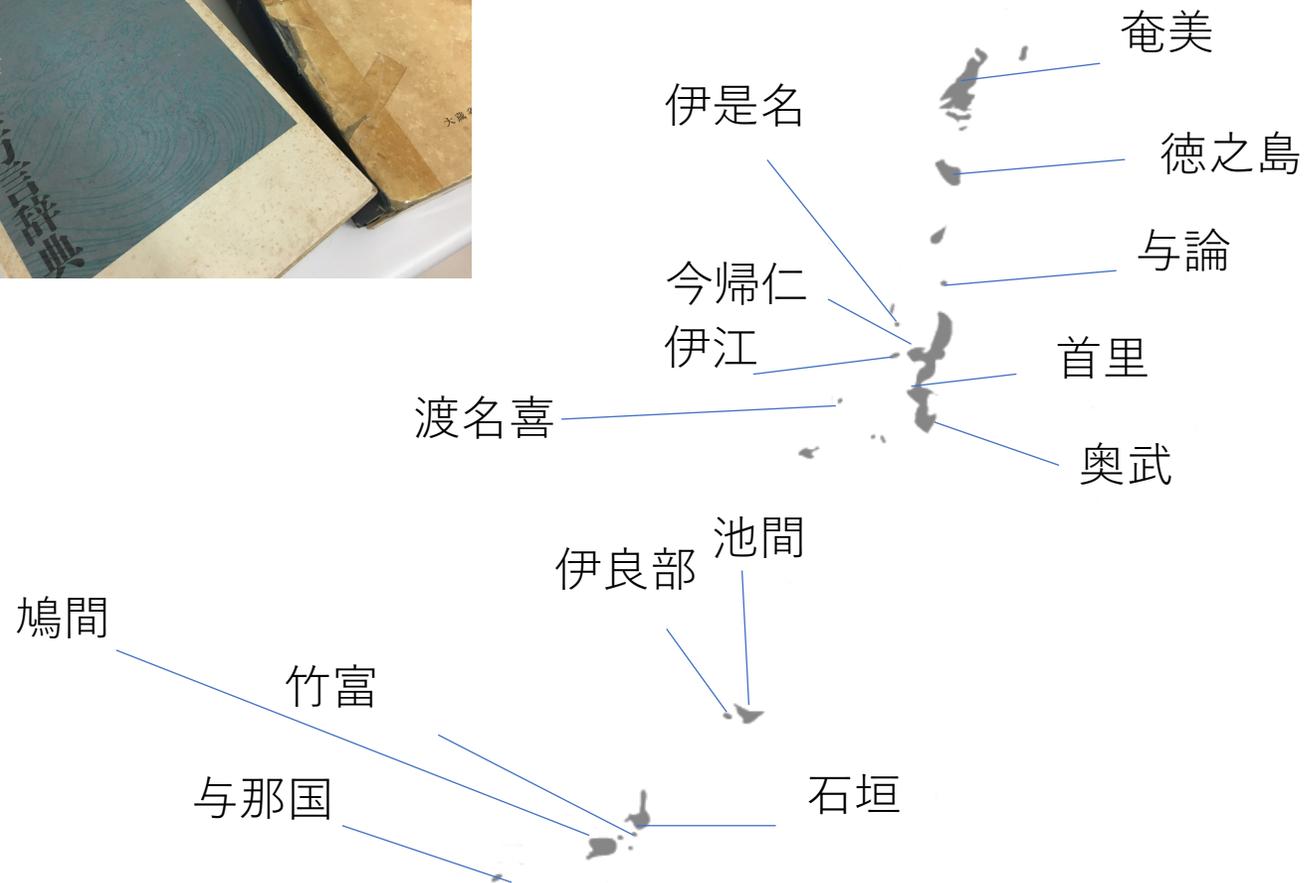
言語ドキュメンテーション (音声と映像) の収集・管理・公開も近年、求められるようになってきている。

- ・二次資料 (文字資料) だけではなく、多目的に利用可能な一次資料を地域コミュニティや研究者と共有することによって、将来的に地域の方が方言教育や言語の維持・再活性化のための活動に使うことが可能になる。

# 危機言語の記録保存と継承



# 辞典が出版されている地域



# 大琉球語辞典（公開予定）

- ・ 琉球大学附属図書館「琉球語音声データベース」（現在は閉鎖）の後継。公開予定。
- ・ 刊行されている複数の辞典の横断検索が可能。琉和に加えて、和琉の検索も可能。
- ・ 音声（項目と用例）を聞くこともできる。
- ・ 広く一般の方に使っていただくことを目的にしている。

# 言語復興の港



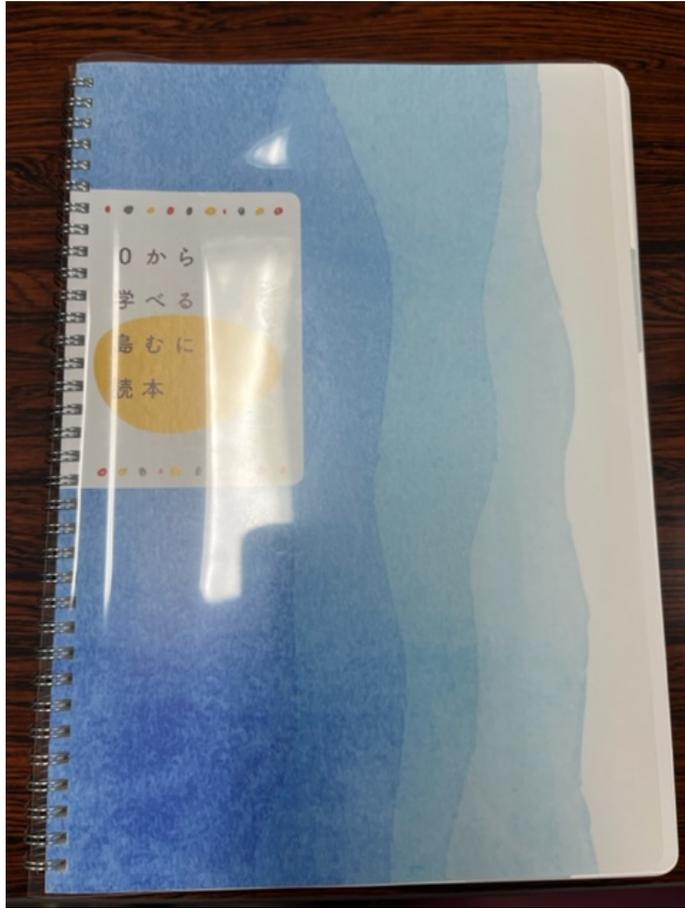
- ・主に琉球の消滅危機言語の継承保存をしながら，そのしくみをつくっていくプロジェクト。

<https://plrminato.wixsite.com/webminato>

- ・2022年に4冊の本を出版。沖永良部，多良間，竹富，与那国のことばで，それぞれの島に伝わる昔話を描いた多言語表記の絵本。

- ・youtubeで音声聞ける他，言語解説つき。

# しまむに宝箱



- ・ 沖永良部島のことば（しまむに）を記録・継承するための、記事・教材・語彙データベースが公開されているサイト。<https://www.erabumuni.com/>

- ・ 教材については、『0から学べる島むに読本』として2022年に出版された。

←は画像が違います。すみません。

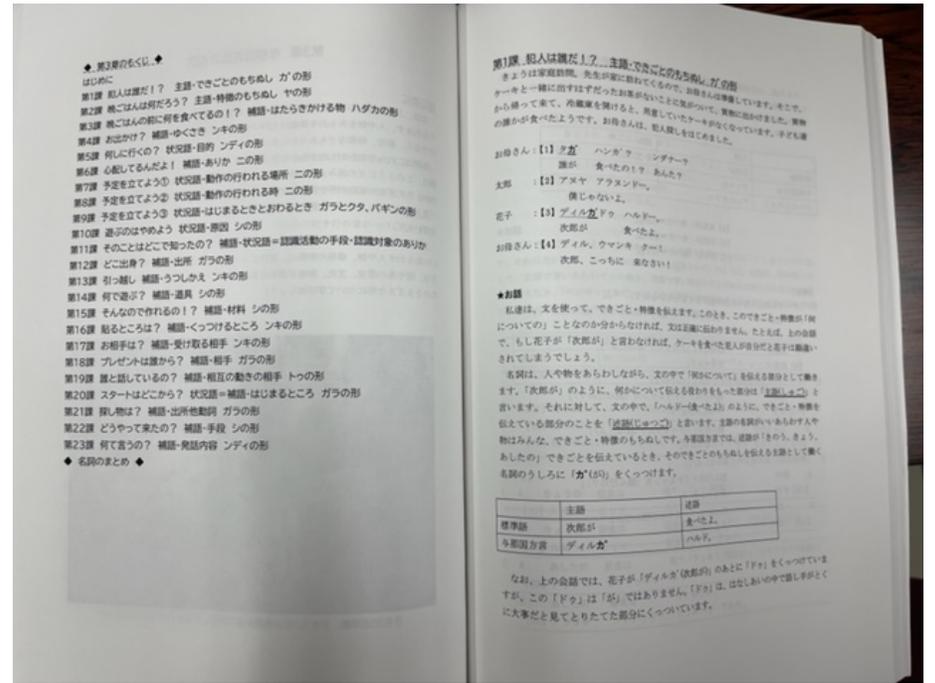
- ・ これまで、首里那覇以外で出版されている教材がなかったため、大きな意義があると思われる。

- ・ Facebookで解説ライブの配信が始まっている。

# その他の教材

・首里那覇以外のしまくとぅば教材だが、手に入りづらいものにも、目差(2022)「与那国方言のテキスト」がある。全66課からなり、初級～中級のみ教材しかないしまくとぅば教材の中では敬語も含めた高度な文法も学ことができる充実したコンテンツ。

・2019年に沖縄県立博物館・美術館で行われた、「下地イサム之歌で学ぶみゃーくふつ入門」の使用テキスト。発行されていない。



下地勇で学ぶみゃーくふつ入門  
一 諺で学ぶみゃーくふつ入門

狩俣 繁久

も く じ

第1課 琉球方言と日本語 ／琉球方言の多様性/方言の多様性/みゃーくふつの特徴(1)ーハに/く/みゃーくふつの特徴(2)ー若者がバカモ/ク/みゃーくふつの特徴(3)タンディガタディ/	1頁
第2課 読ばあ (1) 一語助詞-juのくっつきかた(1) ／助動詞と自動詞/助詞-juのくっつきかた(1)長音、二重母音/助詞-juのくっつきかた(2) ／助詞-juのくっつきかた(3)語末がm/助詞-juのくっつきかた(4)語末がw/	12頁
第3課 読ばあ (2) 一語助詞-juのくっつきかた(2) ／助詞-juのくっつきかた(5)語末がm/助詞-juのくっつきかた(6)語末がn/助詞-juのくっつきかた(7)語末がy/助詞-juのくっつきかた(8)語末がr/	41頁
第4課 片手でさがれーみゃーくふつの発音の特徴 ／aの变化はどのようにしておきたか/助詞 akai 行先・方向/助詞 ii 道具・手段/ 助詞 akai 相手 /	51頁
第5課 読ばあ (3) 一語助詞-juのくっつきかた(3) ／助詞-juのくっつきかた(9)語末がw/	73頁
第6課 助詞の概念 ／助詞-juのくっつきかた(10)語末が半子音 x、w/助詞-juのくっつきかた(11)語末がw/	80頁
第7課 読ばあ (4) ／助詞-juのくっつきかた(12)語末が子音 w/	91頁
第8課 キムドゥ マドゥー母音の變化 ／oの变化はどのようにしておきたか/助詞 akai 行先・方向/助詞 ii 道具・手段/ 助詞 akai 相手 /	97頁
第9課 読ばあ (5) ／否定の条件形「しなれば」/	104頁

# 卒業論文等として

- ・「フクザトフツピャーピャーナロー」（宮古島福里方言）
- ・「パチルマムニペーシャナラスイ°」（波照間島方言）
- ・「シュガーフツしあすば！」（多良間島塩川方言）
- ・場面設定、教材の構成、文法事項の体系性の見直し
- ・地域の民話、手遊び歌、子守歌、子供の遊びなども収録。



# シュガーフツしあすば!

## 第1課 多良間島にやってきた

みかは家族みんなでおじいちゃん、おばあちゃんのいる多良間島に引っ越してきました。宮古島からたらまゆうに揺られて約2時間。多良間島につきました。前泊港にいとこのゆうきが迎えにきてくれました。

みか：やあ、ゆうきか？  
ハーイ、ユーキナー？  
ha:i yu:kina:?

ゆうき：うん、ゆうきだよ。  
イー、ユーキヨー。  
i:, yu:kiyo:.

みかか？  
ミカナー？  
mikana:?

みか：うん、みかだよ。  
イー、ミカヨー。  
i:, mikayo:.

ゆうき：元気だった？  
ガンジューシーブタリ°？  
ga nzyu:syi: butar?

みか：うん、元気だったよ。  
イー、ガンジューシーブタリ°。  
i:, ga nzyu:shi: butar.



シュガーフツ・第一課

### リ°の発音

リ°は舌をそらせて前歯の裏につけたまま「ル」と発音した音です。

### 解説

「～ナー（～か？）」…「はい」か「いいえ」の質問の仕方

「ゆうきか？」、「みかか？」のように、答えが「はい」か「いいえ」になる質問があります。

## 第28課 Oh my goat!

みかは、家で飼っている子ヤギのスズちゃんが好きです。あるときみかは、スズを紐につないで散歩するのはかわいそうに思いました。スズは食いしん坊なので、草をもっているみかの後をちゃんといついてきました。

お母さん：あー みか、 ヤギの 紐を 外した？  
アガイ ミカ、 ピンダヌ ンナウ パZZータリ°？  
agai mika, pindanu nnau pazzi:tar.

みか：うん、ヤギが かわいそうだから、 紐を 外して 散歩したよ。  
イー、ピンダヌ ンダラーシャリ°バ ンナウ パZZー サンポスタリ°ヨ。  
i:, pindanu ndarasya:rba nnau pazzyi: sampostaryo.

ヤギは おりこうだから、 後を ついてきたよ。  
ピンダー オリコウアリ°バ、 チビウ ウェーキスタリ°ヨ。  
pinda: orikouarba, chibiu we:ksitaryo.

お母さん：えー、そのあと、 ヒモを 縛らなかつたでしょ。  
イー、ウヌアト ンナウ マルカダタムシャー  
i:, unuato nnau marukadatamsya:.

あー、 ヤギ、 小屋から 逃げて いないよ。  
アガイー、ピンダ、 ヤーカラ ピンギー プラーンヨー。  
agai:, pinda, ya:kara pingi: bura:nyo:.

みか：え！ どうしよう！  
アガイ！ ヌーガシューズー！  
agai, nu:gasyu:zi:.



### 💡 解説

#### キッズ動詞

「kizzi (削る)」「pazzi (外す、脱ぐ)」のように、基本形が「si」でおわる動詞のグループを、ここでは『kizzi 動詞』と呼びます。kizzi 動詞のグループには他にも「basyaddji (怒る)」があります。kizzi 動詞は、基本形が「kizzi (削る)」「pazzi (外す)」のように、zzi でおわります。否定形は「kizzyan (削らない)」のように zyan でおわります。第一中止形は「kizzitti: (削って)」のように zzitti:でおわります。

### シュガーフツ・動詞活用

## 多良間島の歌



### あんがゆむり

シュガーフツ・子守歌

私が 守して 大きくしてあげるから

アング ユムリ ウェーガラシャープ ヨーホイ

anga yumuri we:garasya:ba yo:hoi

守姉が 漕いで(揺らして)

アニガ クギ

aniga kugi

大きくしてあげるから

プドゥワーシャープ ヨーホイヤーラ

puduwa:sya:ba yo:hoiya:ra



(説明)

多良間の代表的な子守唄です。多良間島では、親が家族以外の女の子でふさわしいと思う子に、子どものお世話を願う風習があります。このように、小さい子のお世話をする人を「ムリ<sup>o</sup>アニ(守姉)」といいます。守姉にお世話してもらう子どものことは、「ムリ<sup>o</sup>ツファ(守子)」といいます。子どもがある程度大きくなるとその役目はなくなりますが、守子と守姉との関係は深く、守子は守姉をいつまでも大切に思うものだそうです。「あんがゆむり」の歌からは、子守をしている守姉の守子への愛情が感じられます。



# マスター・アプレンティス語学学習

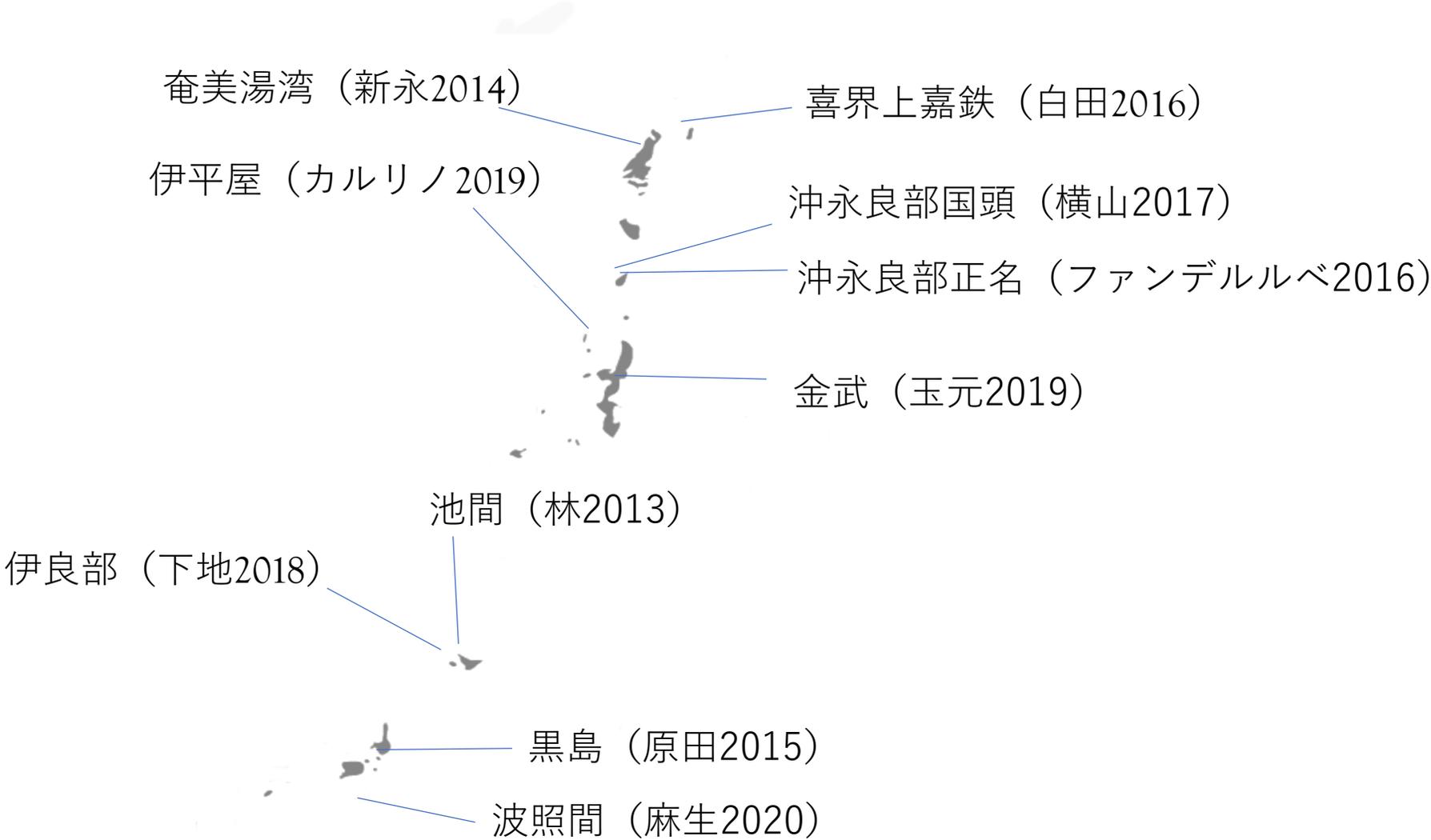
- 「イニシアティブ実施中の交流はできるだけ対象言語のみで行い，アプレンティス（学習者）が母語話者であるマスターの言葉をひたすら真似し，生活の中で積極的に使うという学習法」（トッピング2021）
- 「琉球諸語が話せるようになりたい新しい話者（アプレンティスに相当）に，身近な話者（マスターに相当）と一緒に過ごす時間を作ってもらい，日常生活の中で可能な限り琉球諸語を使用してもらおうという」デザイン（ズラズリ2021）
- 2020年から石垣の4地点でトッピング氏と半嶺氏がチーム方式で実践。2021年2月までに2チームが継続。（トッピング2021）
- ズラズリ氏が自身の出身地である沖縄島読谷に滞在し2019年に家族や話者としまくとぅばで会話するように実践。2020年に「日常生活の中で話者と新しい話者が一緒に過ごす時間」「新しい話者同士の自助ネットワーク」「専門家のサポート」の3本の柱で構成されるMAI-Ryukyusプロジェクトを立ち上げ」た。（ズラズリ2021）

# ポリノミック・モデルの応用

- 「地域差に基づいた規範性で言語内の方言差にヒエラルキーを作らず，言語内の地域的多様性を限定しようとしなない」ポリノミック・モデルに基づいた語学教育の提案と実践（ファンデルルベ2021）
- ハイス氏と松田氏は，「うちなーぐち習得勉強会（びんちょーくわい）」を2013年からはじめており，現在まで続けている。沖縄語の地域差を学習者に理解し，認識してもらいながら上級者向けの講座まで提供。
- 目標地域言語が異なる学習者が一緒に沖縄語を学習することができる。

# 言語記述と教材作成

# 文法記述



# 研究と教育の両輪

- 各地の文法記述が進み，教材を作成する準備は整っている。
- 教材作成と言語記述の両立が研究者側の今後の課題。教材作成は研究の停滞にはならず，これまで気づかなかった言語現象に気づき，より深い記述に繋がる可能性。
- 終助詞を含めたモダリティ研究，否定表現，質問文，依頼文，命令文，必然（必要）表現，副詞など，教材を作成していると，よくわからなくなる言語現象は多い。

# まとめ（教材作成への今後の課題）

- 地域差を尊重すること
- 首里・那覇以外の教材作成
- 初級だけではなく，中級，上級むけの教材の必要性
- その教材を使って教えたいという人むけの教師用の手引

現在行われる，今後行われる再活性化のためのさまざまな取り組みと接続可能な教材

# 参考文献

石原昌英（2016）「ウクムニー（奥方言）の活力と危機度について」『シークワサーの知恵』京都大学学術出版,pp378-401

上村幸雄（1967）「小学校国語科と国語教育の関係」『教育国語』11,教育科学研究会国語部会編,麥書房.

上村幸雄（2002）「言語、その過去、現在、未来（その1）」『国文学解釈と鑑賞』68-7,至文堂,pp6-21.

上村幸雄（2003）「言語、その過去、現在、未来（その3）」『国文学解釈と鑑賞』68-7,至文堂,pp6-22.

大野眞男（2015）「方言の継承における研究者の役割」大野眞男・小林隆編『方言を伝える』ひつじ書房.

かりまたしげひさ（2012）「多様な琉球方言をいかに継承するかー課題と可能性を考える」（第二回法文学部地域貢献フォーラム配布資料）

かりまたしげひさ（2013a）「endangered languageとkiller language」『時の眼－沖縄 批評紙N27』新星出版,pp94-97.

かりまたしげひさ（2013b）「琉球方言とその記録、再生の試みー学校教育における宮古方言教育の可能性」『琉球列島の言語と文化ーその記録と継承』くろしお出版,pp21-44.

かりまたしげひさ（2016）「琉球方言の言語地理学と動的系統樹」『シークワサーの知恵』京都大学学術出版.

狩俣繁久（2019）「沖縄クレオロイドの研究をめぐって」『琉球の方言』43,法政大学沖縄文化研究所,pp85-96.

カルリノ・サルバトーレ（2019）『北琉球沖縄語伊平屋方言の文法』一橋大学大学院,博士論文.

木部暢子編（2019）『明解方言学辞典』三省堂.

源河優香（2018）「多良間村塩川方言習得のための教材研究と教材作成」（琉球大学卒業論文）

コレット・グリンバルド（2002）「瀬戸際での出会いー危機言語の話者とフィールドワーク」『消滅の危機に瀕した世界の言語ーことばと文化の多様性を守るために』明石書店,pp239-281.

崎原正志（2015）「ネオ沖縄語の出現とシマクトゥバの消失」『国際琉球沖縄論集』4, 琉球大学国際沖縄研究所,pp33-46.

下地理則（2018）『南琉球宮古語伊良部島方言』くろしお出版.

島袋幸子（2002）「琉球方言研究の父、仲宗根政善」『国文学解釈と鑑賞』68-7,至文堂,pp181-186.

白田理人（2016）『琉球奄美喜界島上嘉鉄方言の文法』京都大学,博士論文.

鈴木重幸・工藤真由美（1996）『にほんごだいすきーおしえかたガイドー』むぎ書房.

スティーブン・A・ワーム（2002）「言語の危機と言語の死ー危機言語を保持し、再活性化するには」『消滅の危機に瀕した世界の言語ーことばと文化の多様性を守るために』明石書店,pp146-168.

ズラズリ美穂（2021）「新しい話者の視座から見た琉球諸語の開花の取り組み」『島嶼地域科学』2,琉球大学島嶼地域科学研究所,163－181.

ダニエル・ロング（2010）「言語接触論からみたウチナーヤマトゥグチの分類」『人文学報日本語教育学』428,東京都立大学人文学部,1-30.

玉元孝治（2019）『金武方言の文法（草稿Ver.3.0）』Academia.edu.  
[https://www.academia.edu/38607764/%E9%87%91%E6%AD%A6%E6%96%B9%E8%A8%80%E3%81%AE%E6%96%87%E6%B3%95\\_%E8%8D%89%E7%A8%BFVer\\_3\\_0\\_pdf](https://www.academia.edu/38607764/%E9%87%91%E6%AD%A6%E6%96%B9%E8%A8%80%E3%81%AE%E6%96%87%E6%B3%95_%E8%8D%89%E7%A8%BFVer_3_0_pdf)

角田太作（2002）「研究者の任務・倫理と記録の方法」『消滅の危機に瀕した世界の言語ーことばと文化の多様性を守るために』明石書店,pp282-290.

津波古敏子（1992）「琉球列島の言語（沖縄中南部方言）」亀井孝・河野六郎・千野栄一編『言語学大辞典第4巻』三省堂,pp829-848.

當山奈那（2015）「首里方言のなかの地域方言と社会方言」『琉球方言研究』4,琉球方言研究室,pp88-102.

當山奈那（2016）「奥方言（ウクムニー）習得のための音声テキスト試作版の作成」『シークワサーの知恵』京都大学出版会,pp.428-457.

當山奈那（2017）「ことばの多層性―首里のことばを例にして―」『ことばと文字』8号,くろしお出版,pp36-46.

當山奈那（2019）「琉球諸語における音声教材作成について―言語習得と方言教育と危機言語記録の記録保存の各観点から―」『琉球アジア文化論集』5,琉球大学人文社会学部,161-184.

トッピング・マシュウ・W（2021）「石垣市におけるしまくとぅばの言語イデオロギーと継承―参加型アクション・リサーチとしての事例研究―」『島嶼地域科学』2,琉球大学島嶼地域科学研究所,79－96.

中松竹雄（1999）『沖縄県のことば』沖縄文化研究所.

名護市史編さん委員会（2006）『名護市史本編・10 言語―やんばるの方言』名護市史編さん室.

那覇市（2013）『ちかてい あしばな しまくとぅば（使って 遊ぼう しまくとぅば）』（高学年用）

新永悠人（2014）A Grammar of Yuwan,a Northern Ryukyuan Language. 東京大学,博士論文.

新永悠人、石原昌英、西岡敏（2014）「北琉球諸語（奄美語・国頭語・沖縄語）の存続力と危機度」『琉球諸語の保持を目指して』ココ出版.

西里喜行（1981）『論集・沖縄近代史―沖縄差別とは何か―』沖縄時事出版.

西島本麻衣（2017）「波照間方言習得のための音声テキストの提案」（琉球大学卒業論文）

ニコラス・エヴァンス（2013）『危機言語―言語の消滅でわれわれは何を失うのか』（大西他訳）京都大学学術出版.

野田尚史（2003）「日本語教育は日本語研究にどのように寄与しているか」『国文学解釈と鑑賞』68-7,至文堂,pp24-31.

ファンデルルベ・ハイス（2016）『琉球沖永良部語正名方言の記述文法研究』琉球大学大学院,博士論文.

ハイス・ファン＝デル＝ルベ（2021）「琉球諸語の語学教育―ポリノミックモデルを応用して―」沖縄国際大学公開講座委員会編『沖縄国際大学公開講座30ポードレス・ダイバーシティ社会に向けて』沖縄国際大学公開講座委員会,289-320.

麻生玲子（2020）「南琉球八重山語波照間方言の文法」東京外国語大学,博士論文,

バーナード・コムリー（2002）「消滅の危機に瀕した言語の記録および保存」『消滅の危機に瀕した世界の言語―ことばと文化の多様性を守るために』明石書店,pp224-238.

林由華（2013）『南琉球宮古語池間方言の文法』京都大学大学院,博士論文.

原田走一郎（2015）『南琉球八重山黒島方言の文法』大阪大学,博士論文.

ヴィレム・F・H・アデラル（2002）「記述言語学と新たに記述された言語の標準化」『消滅の危機に瀕した世界の言語―ことばと文化の多様性を守るために』明石書店,pp207-220.

松尾慎（2010）「台湾における「郷土語言教育」の実態―台中市と新竹縣の公立小学校における調査より」『東アジアにおける言語復興―中国・台湾・沖縄を焦点に―』

宮岡伯人（2002）「消滅の危機に瀕した言語―崩れゆく言語と文化のエコシステム」『消滅の危機に瀕した世界の言語―ことばと文化の多様性を守るために』明石書店,pp8-53.

目差尚太（2022）「与那国方言のテキスト」『琉球方言研究』6,琉球大学琉球語学研究室,pp.103-250.

安元悠子（2021）「個人の言語レパートリーに基づいた言語シフトの考察―「移動」を経験した琉球諸語話者の内的体験から―」『島嶼地域科学』2,島嶼地域科学研究所,97－116.

安元悠子（印刷中）『琉球諸語の喪失と活性化をめぐる言語イデオロギー―言語バイオグラフィーの質的分析を通して―』琉球大学大学院,博士論文.

横山晶子（2017）『琉球沖永良部島国頭方言の文法』一橋大学,博士論文.

琉球方言研究クラブ（2015）「宮古島城辺福里方言の音声テキストについて」（沖縄言語研究センター定例研究会発表資料,2015年12月19日）

ローレンス・ウェイン「与那国方言の系統的位位置」『琉球の方言』32,法政大学,pp59-67.

Himmelman, Nikolaus P. 1998. Documentary and descriptive linguistics. Linguistics 36(1): 161-95.